



# 柿崎区地域協議会だより



発行：柿崎区地域協議会 事務局：柿崎区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL025-536-2211

## 会長、各委員長が4年間の取組を振り返る

### 令和 6 年度以降の柿崎区における課題を整理

令和 2 年から 4 年間で、柿崎区地域協議会が取り上げた自主的審議事項は、「公共交通の在り方」「保育園の適正配置」「空き家利活用」でした。また、「産業廃棄物最終処分場の建設」についても検討を進めてきました。今後の柿崎区における課題について整理してみたいと思います。

（柿崎区地域協議会会長 吉井 一寛）

#### ■保育園統合と新規建設

昨年 3 月、市へ「区内 4 保育園の統合」について意見書を提出しました。市は、「上越市保育園の適正配置等に係る計画」第 4 期（令和 6 年度～令和 9 年度）に柿崎区の 4 保育園統合を盛り込みました。柿崎区では統合される保育園は新設（新築）とし、具体的な日程は示されていませんが、第 4 期（令和 9 年度）中に開園できるように市へ申し入れていきます。

#### ■空き家の利活用と移住者の呼び込み

区内の空き家解消と移住者呼び込みを進めることを目的に、「かきざき空き家利活用協議会」が設立

されました。協議会は、「空き家を売りたい人・貸したい人」と「買いたい人・借りたい人」のマッチングの他、空き家の解体や家財の処分、空き家の維持管理サービスの紹介等を行い、空き家を解消し、柿崎区の活性化と生活環境の維持を目指すものです。

#### ■地域独自の予算を活用した地域活性化

市は、地域活動支援事業を令和 4 年度で廃止し、令和 5 年度から「地域独自の予算による地域活性化」に舵を切りました。現在、「明日へつなぐ事業検討委員会」が令和 7 年度に向けた事業提案を検討しています。

#### ■上越地区産業廃棄物最終処分場の建設

令和 5 年度は基本計画・基本設計と環境アセスメントを行っていきます。令和 6 年度は用地取得と法的手続きを行う予定です。令和 7 年度からは搬入道路工事に着手し、令和 9 年度から処分場工事に入ります。今後、進捗状況をチェックするとともに、建設工事中及び建設後も地元経済に好影響が及ぶように注視していく必要があります。

#### ■旧運転免許センター 上越支所跡地利用

敷地は、昭和 39 年に旧柿崎町が県に寄付したのですが、令和 2 年 11 月に免許センター機能が直江津に移転し、令和 4 年 3 月に敷地は県から市に返還されました。市は、サウンディング型（対話型）市場調査を実施し市場動向を調査中です。面積は 3 万 2 0 0 0 m<sup>2</sup>、準工業地域です。土地の活用が柿崎区の地域振興にどのように貢献するか、注視していく必要があります。

# 空き家利活用協議会を設立 4 月 1 日から事業をスタート

柿崎空き家活かそうプロジェクト  
委員長 蓑輪 和彦

去る 2 月 29 日、令和 2 年 10 月から 3 年 4 か月にわたり活動してきた柿崎空き家活かそうプロジェクト委員会の最後の会議が終了しました。

この間、検討会議の他、行政の空き家対策担当部署との懇談会、柿崎区内移住者との意見交換会、妙高市、糸魚川市、十日町市などの空き家利活用の先進地視察を行ってきました。さらに、町内会長を対象に「空き家アンケート」を行い、市の空き家支援制度チラシを作成し、町内会長のご協力を得て全町内会に回覧しました。こうした委員会の活動の集大成として、2 月 14 日に「かきざき空き家利活用協議会」が設立され、4 月 1 日から事業を開始します。

思い返せば、空き家問題という地域課題に対して、どのようにアプローチしたらいいか全く見当がつかず、不安だらけの状況の中でスタートしたプロジェクトでしたが、空き家の利活用促進の事業母体となる協議会組織を設立するということかたちでプロジェクトをまとめることができました。



33 社が参加し協議会を設立

# 暮らしの足を守る はまなすバスを運行

地域の交通を考える会  
委員長 武田 正教

昨年 10 月から NPO 法人柿崎まちづくり振興会が「交通空白地有償運送はまなすバス」の運行を始めました。柿崎区地域協議会は、平成 29 年 12 月 19 日に「地域の交通を考える会」を立ち上げて、バス路線の無い下黒川地区と七ヶ地区に導入可能な公共交通を検討し、令和元年 8 月 20 日に「デマンド型乗合いタクシー」導入の検討を意見書にして市へ提

言しました。市からの回答は、今後互助・共助を含め最適な交通手段を検討していくとのことでした。その後、黒岩線・水野線のバス路線廃止の方針が打ち出されたことから、前期と合わせて 27 回の代替交通の検討会議を開催し、令和 2 年度から柿崎まちづくり振興会が検討会議に加わり協議を続けてきました。

協議の結果、令和 3 年 7 月 27 日、柿崎まちづくり振興会へ代替交通手段の検討を要請しました。その後は柿崎まちづくり振興会主導で協議が進められ、昨年 10 月 2 日に「はまなすバス」の運行が実現しました。利用者からは今まで以上に乗りやすくなったと、大変喜ばれています。



利用者に好評な「はまなすバス」

## みんなの力をつないで 柿崎の明日を創造する

明日へつなぐ事業検討委員会  
委員長 小出 祥世

柿崎区の「地域活性化の方向性」を『柿崎区の米山と日本海にいだかれた魅力のまちという強みを生かして、三大薬師「米山」のブランド力を高め、地域を活性化します』と定め、構成要素として、発信、交流・イベント、産業、暮らし、文化、「米山・柿崎」ブランド化に決定しました。

地域独自の予算事業補助金を活用して事業化につなげるため、「明日へつなぐ事業検討委員会」を立ち上げ、昨年 10 月から構成要素を基に予算要求に向けて検討を続けています。

地域活動支援事業補助金の廃止、新たな事業への不安もありましたが、とにかく前へ進むもうと考え、グループワークを取り入れて検討してきました。情報を共有し意見を出し合う作業は、柿崎区の魅力を再確認する機会にもなったと思います。現在、関係団体と検討中ですが、「サウナ・キャンプで魅力を発信」「鮭の遡上を目指す」「メダカを守り育てる」など、実現化を目指す事業が見えてきました。



米山の魅力を生かして柿崎区を活性化

## みんなが通わせたいと思う 保育園を目指して

みんなの保育園を考える会  
委員長 小山 慶

前期から進められていた区内保育園の今後のあり方について、改めて現状を知るために視察や懇談会を開きました。区内保育園は、老朽化と園児数の減少が止まらず、改善が急務でした。それに加え、視察先の「なおえつ保育園」は園舎や管理体制、保育サービスなどすべてが新しく、今の時代に合った保育園でした。懇談

会では、現状を丁寧に説明し、不安や疑問を少しづつ解消されるように意見交換会も行いました。「園児が多くなると保育士の目が届きにくくなる」「どこに新しい保育園ができるのか」「通園に支障がないようにしてほしい」「民間移管は反対」など多くの疑問や意見が出ました。統合に関しては、「現状を考えると仕方ない」「概ね賛成」が多数でした。懇

談会のアンケート結果をまとめ、保護者や地域（町内会長）に周知させていたただいたうえで、市へ統合再編に向けた意見書を提出しました。

幼児保育課が保護者と意見交換会を行い、少しずつ統合再編に向けて動き出しています。安全安心で魅力ある保育園が、ここ柿崎区にできることを今から楽しみにしています。



4 保育園を統合し保育サービスを充実

## まちづくりフォーラムを開催 ～現在の柿崎を知り 10 年後の柿崎を創造～

2 月 25 日に開催した「まちづくりフォーラム」に、足をお運びいただきありがとうございました。お礼申し上げます。

今回のフォーラムは地域協議会、1 期

4 年の総括の発表の場でもありました。産業廃棄物最終処分場の建設、少子高齢化、出生率の低下、空き家問題、柿崎区の魅力発信など、どこの地方都市もそうですが、柿崎区もその例に漏れない大きな問題です。「柿崎区が少しでも住みやすくなるように」「柿崎区の魅力を発信し、行ってみたい、住んでみたい」そんなまちづくりのヒントになればと思います。開催時間 2 時間の予定でしたが、大幅に時間を超過し 3 時間の開催時間となりました。5 つの議題の発表を行い、それぞれの質問や意見が多数あり、皆さんの熱意の程が伺えました。

(実行委員長 岩野 秀樹)



フォーラムには 68 人が参加

## 柿崎区地域協議会の主なうごき(令和 6 年 1 月～令和 6 年 3 月)

会議名	開催月日	主な内容
かきざき空き家利活用協議会 第 5 回設立準備委員会	1 月 15 日	設立総会開催に向けた協議
第 10 回地域協議会	1 月 16 日	「頸北斎場の管理の在り方について」の諮問に対する答申について ほか
第 3 回まちづくりフォーラム実行委員会	1 月 16 日	まちづくりフォーラムの準備、役割分担
第 34 回空き家活かそうプロジェクト会議	2 月 6 日	設立総会開催に向けた検討
かきざき空き家利活用協議会設立総会	2 月 14 日	会則、事業及び予算等を審議・決定
第 11 回地域協議会	2 月 20 日	「頸北斎場の管理の在り方について」の答申に対する回答について ほか
第 6 回明日へつなぐ事業検討委員会	2 月 20 日	地域独自の予算事業の活用に向けた検討
第 35 回空き家活かそうプロジェクト会議	2 月 29 日	空き家利活用協議会 第 1 回理事会の協議事項の検討
第 12 回地域協議会	3 月 19 日	上越市消防団柿崎方面隊の組織体制の見直しについて ほか

### 【編集後記】

1 月 1 日の能登半島地震には誰もが衝撃を受けられたと思います。亡くなられた方々、被災された方々にはお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、今の地域協議会委員の任期が間もなく終わろうとしています。選任されたときは新型コロナウイルスの感染拡大のため、生活様式にも制約がある中ででの活動となりました。

今号の地域協議会だよりは、4 年間で取り組んだ自主的審議事項をそれぞれ取りまとめ掲載しました。一区切りついた事項もあれば、継続して検討していく必要がある課題もあります。改めて選任される委員の方々に後をお願いしたいと思います。

(中村 誠)

編集委員長 中村 誠

編集委員

白井一夫 武田正教

荻輪和彦 吉井一寛

吉村 正